



(本 莊)

岩倉館跡は、日本海まで約四・五kmの出羽丘陵西端部に立地する。標高は七〇m前後。岩倉館は、由利十二頭の一人である内越左近の居城と伝えられる。日本海沿岸東北自動車道建設事業に伴い、二〇〇三・〇四年に発掘調査が行なわれた。館跡の範囲は、南北五八〇m東西三〇〇mと推定され、西側は採石などにより大部分が失われている。

調査では空堀や土塁のほ

## 秋田・岩倉館跡

所在地 秋田県由利本荘市福山字岩倉

調査期間 二〇〇四年(平16)五月～一〇月

発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター

調査担当者 栗澤光男・藤田賢哉ほか

遺跡の種類 城館跡

遺跡の年代 一四世紀～一六世紀前半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

岩倉館跡は、日本海まで約四・五kmの出羽丘陵西端部に立地する。

か、丘陵の傾斜部に造成された一〇面の郭(I郭～X郭)が見つかった。各郭からは、掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑、溝、柱列などが検出された。出土遺物は、中国産の青磁・青白磁・白磁・染付や国産の珠洲系・越前・瀬戸・美濃の陶器類の他、五輪塔の一部などが。時期的には一四世紀から一六世紀前半までの幅をもつ。木簡は、二〇〇四年度調査において、SE一七一〇から一点出土した。SE一七一〇はⅢ郭面の東側で確認された井戸で、径一・五m前後、深さ約一・九mを測る。木簡は、廃絶時に拳大の礫七点とともに埋められた卒塔婆と思われる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ×大靈追善供養□大菩提□

文

(1028)×121×9 061

上下両端及び、左辺の一部を欠損する。下部は尖らせる。スギ材。

9 関係文献

秋田県教育委員会「岩倉館跡」(二〇〇七年)

(藤田賢哉)

